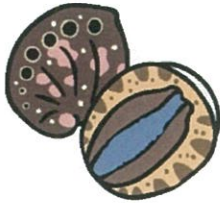


クロアワビ



- ・ 沿岸の岩礁域に生息し（メガイアワビより浅い）、主に外房地区で素潜りにより漁獲される。
- ・ 4～5 歳で漁獲サイズとなる殻長 12 cm (230g 前後) に達する。
- ・ アワビ類の産卵期は 10 月～翌年 1 月。
- ・ 1968 年から県がアワビ類の種苗放流を実施している。近年の一般漁場における混入率（過去 5 年平均）は 7～24%（※1）。

※1 漁獲物調査を実施している千倉 2 地区、鴨川 1 地区、勝浦 1 地区の 2012 年～2016 年の平均。

資源評価

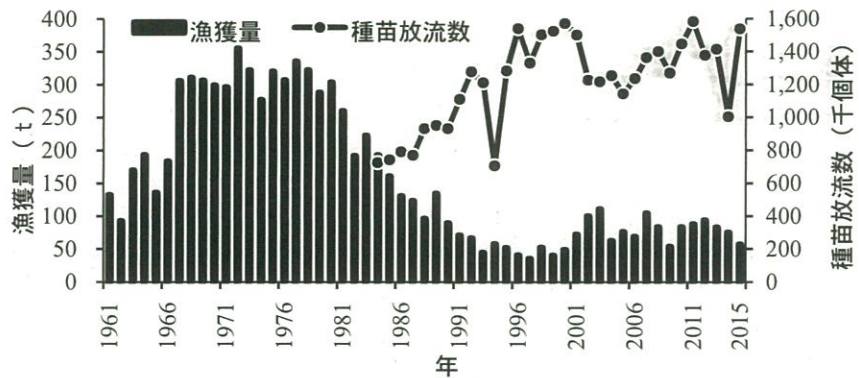
水準：高位（※2）



動向：横ばい



漁獲量



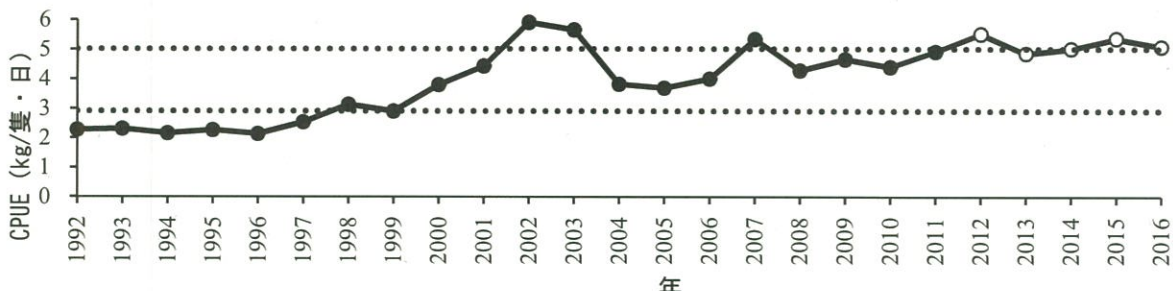
クロアワビ漁獲量 (千葉県調べ) 及び種苗放流数 (栽培漁業種苗生産、入手・放流実績 (全国)) の経年変化

- ・ 最大は 1972 年の 355 t。
- ・ 最小は 1997 年の 35 t。
- ・ 2015 年は 57 t。

注) 資源水準は、原則過去 20 年以上の評価指標値 (CPUE) から 4 分位により評価した。
資源動向は、最近 5 年間の評価指標の近似式から年間 5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要地区一般漁場の素潜り漁業の CPUE で判断した。
 - ・ 2016 年の資源水準は最近 25 年間の高位 (※2)。最近 5 年間の資源動向は横ばい。
- ※2 評価期間内のデータから判断される資源状況は「高位」であるが、それ以前の資源水準 (CPUE) は漁獲状況等から現在を上回っていたものと考えられる。

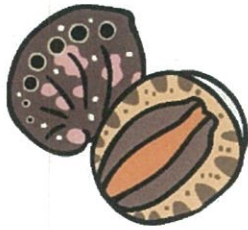


クロアワビ主要地区一般漁場素潜り漁業 CPUE の経年変化

資源管理の取り組み

- ・ 千葉県海面漁業調整規則で殻長制限 (12 cm 以下のものは採捕してはならない) と禁漁期間 (9/16～3/31) が定められている。
- ・ 漁法の制限, 操業時間の制限, 種苗放流, 密漁対策, 禁漁区漁場の輪採制の導入及び稚貝保護区の設定等, 漁業者による自主的な資源管理や増産活動が行われている。

メガイアワビ



- ・ 沿岸の岩礁域に生息し（クロアワビより深い）、主に外房地区で素潜りにより漁獲される。
- ・ 4～5 歳で漁獲サイズとなる殻長 12 cm (210g 前後) に達する。
- ・ アワビ類の産卵期は 10 月～翌年 1 月。
- ・ 1968 年からアワビ類の種苗放流が行われている。近年の一般漁場における混入率（過去 5 年平均）は 0.4～13%（※1）。

※1 漁獲物調査を実施している千倉 2 地区、鴨川 1 地区、勝浦 1 地区の 2012 年～2016 年の平均。

資源評価

水準：中位



動向：増加



漁獲量



メガイアワビ漁獲量 (千葉県調べ) 及び種苗放流量 (栽培漁業種苗生産、入手・放流実績 (全国)) の経年変化

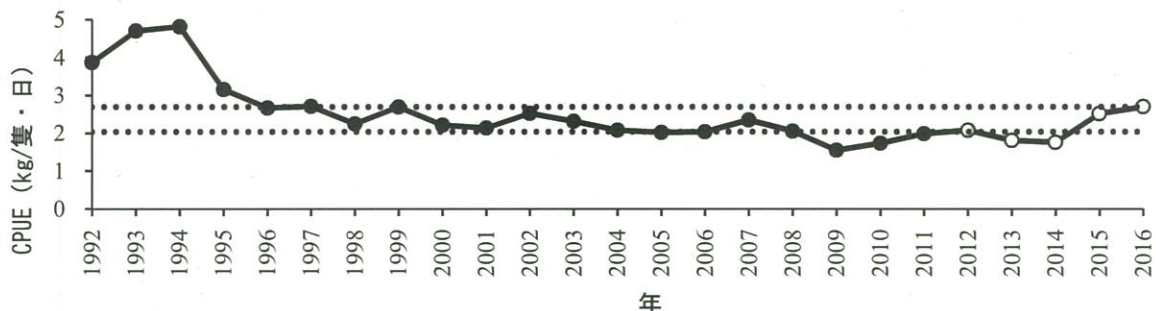
- ・ 最大は 1975 年の 295 t。
- ・ 最小は 2009 年の 22 t。
- ・ 2015 年は 22 t（※2）。

※2 2015 年の操業のべ隻数（隻数×日数）は、主要地区一般漁場の素潜り漁業で、平年（2000～2014 年の平均）の 43%であった。

注) 資源水準は、原則過去 20 年以上の評価指標値 (CPUE) から 4 分位により評価した。
資源動向は、最近 5 年間の評価指標の近似式から年間 5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要地区一般漁場の素潜り漁業の CPUE で判断した。
- ・ 2016 年の資源水準は最近 25 年間の中位。最近 5 年間の資源動向は増加。



メガイアワビ主要地区一般漁場素潜り漁業 CPUE の経年変化

資源管理の取り組み

- ・ 千葉県海面漁業調整規則で殻長制限（12cm 以下のものは採捕してはならない）と禁漁期間（9/16～3/31）が定められている。
- ・ 漁法の制限、操業時間の制限、種苗放流、密漁対策及び稚貝保護区の設定等、漁業者による自主的な資源管理が行われている。

サザエ



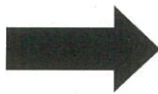
- ・ 沿岸の岩礁域に生息し、主に内房～外房地区で刺網、見突き、素潜りにより漁獲される。
- ・ 3～4 歳で漁獲サイズとなる殻高 7 cm (90g 前後) に達する。
- ・ 産卵期は 5～9 月。

資源評価

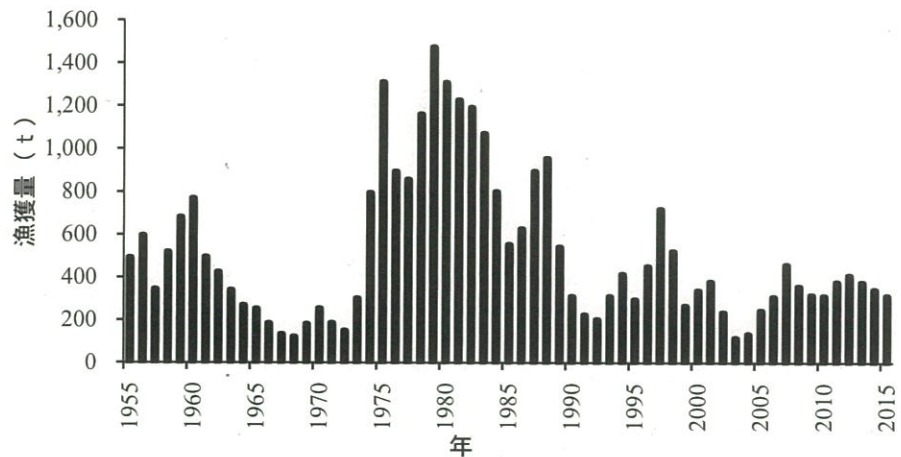
水準：中位



動向：横ばい



漁獲量



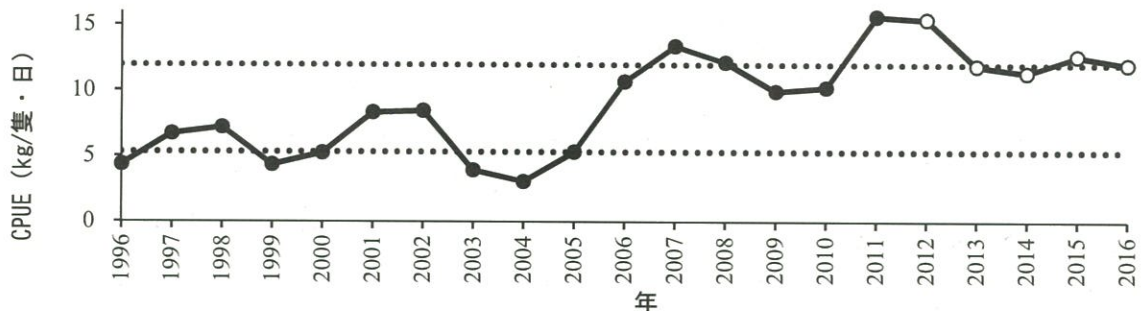
サザエ漁獲量 (千葉農林水産統計年報) の経年変化

- ・ 最大は 1979 年の 1,474 t。
- ・ 最小は 2003 年の 116 t。
- ・ 2015 年は 314 t。

注) 資源水準は、原則過去 20 年以上の評価指標値 (CPUE) から 4 分位により評価した。
資源動向は、最近 5 年間の評価指標の近似式から年間 5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要地区の刺網漁業の CPUE で判断した。
- ・ 2016 年の資源水準は最近 21 年間の中位。最近 5 年間の資源動向は横ばい。



サザエ主要地区刺網漁業 CPUE の経年変化

資源管理の取り組み

- ・ 千葉県海面漁業調整規則で殻高制限 (7 cm 以下のものは採捕してはならない) と禁漁期間 (6/1～6/30) が定められている。
- ・ 1994 年以降、海区漁業調整委員会指示により 7/1～7/31 は原則採捕禁止とされている。

ダンベイキサゴ



- ・ 外海に面した砂浜海岸に生息し、県内では九十九里では貝桁網（小型機船底びき網漁業）、鋤簾（じょれん）により、鴨川ではろくろ曳き（人力による底びき網）により漁獲される。
- ・ 1歳で殻径約1.2cm、2歳で2.3cmに成長し、3歳で3.0cmとなる。
- ・ 寿命は5年以上と考えられ、3.5cmを超える大型のものも漁獲される。
- ・ 産卵期は4～6月、11～1月。

資源評価

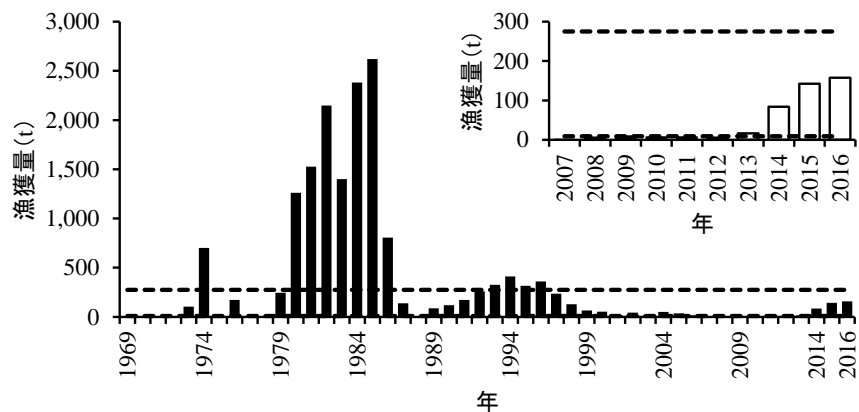
水準：中位



動向：増加



漁獲量



ダンベイキサゴ漁獲量の経年変化（千葉県調べ）

- ・ 1970年代は、1974年を除き低位から中位で推移していたが、1980年代には1,000t以上に増加し、1986年まで高位で推移していた。
- ・ 1988年には10tまで減少したが、再び増加し、1994年には400t以上の漁獲があった。その後再び減少傾向となり、2012年まで低位で推移していたが、2014年以降増加し、2016年は150t以上漁獲された。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値（漁獲量）から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び資源動向は、漁獲量の推移で判断した。
- ・ 2016年の資源水準は中位、最近5年間の資源動向は増加。

資源管理の取り組み

- ・ 千葉県海面漁業調整規則で漁具の目合、小型機船底びき網漁業の許可方針で使用漁船のトン数などが定められている。
- ・ 貝桁網漁業では操業隻数・日数の制限など漁業者が自主的な資源管理を実施している。

チョウセンハマグリ



- ・ 外海に面した砂浜海岸に生息し、県内では九十九里では貝桁網（小型機船底びき網漁業）、鋤簾（じょれん）により、鴨川ではろくろ曳き（人力による底びき網）により漁獲される。
- ・ 1歳で殻長約1cm、2歳で3~4cm（7~16g）に成長し、3歳で5~6cm（31~54g）となる。
- ・ 寿命は10年以上で10cm（250g）を超えるものも漁獲される。
- ・ 産卵期は6~9月。

資源評価

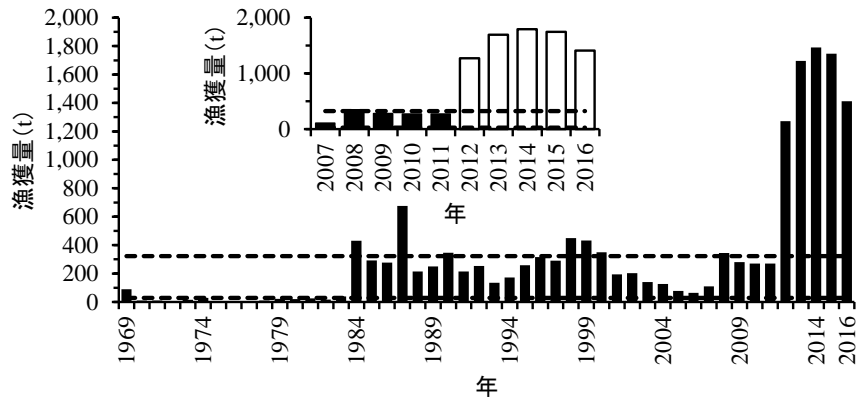
水準：高位



動向：横ばい



漁獲量



チョウセンハマグリ漁獲量の経年変化

(2006年まで千葉農林水産統計年報, 2007年から千葉県調べ)

- ・ 1969~1983年は低位で推移していたが、1984年以降は70~660tで増減を繰り返し、2012年以降1,000t以上の漁獲が続いている。
- ・ 2012年以降は、2009年生まれの卓越年級群の加入により漁獲が増加したと考えられる。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値（漁獲量）から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び資源動向は、漁獲量の推移で判断した。
- ・ 2016年の資源水準は高位、最近5年間の資源動向は横ばい。

資源管理の取り組み

- ・ 千葉県海面漁業調整規則で漁具の目合、殻長制限（3cm以下のものは採捕してはならない）、小型機船底びき網漁業の許可方針で使用漁船のトン数などが定められている。
- ・ 資源保護区域の設定に加え、貝桁網漁業では操業隻数・日数の制限、漁獲サイズの大型化など、鋤簾漁業では禁漁期の設定など漁業者が自主的な資源管理を実施している。

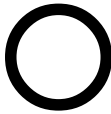
イセエビ



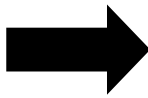
- ・ 沿岸の岩礁域に生息し、主に外房地区で刺網により漁獲される。
- ・ 3歳で漁獲サイズとなる全長 13 cm (80g 前後) に達する。
- ・ 産卵期は 5~9 月。

資源評価

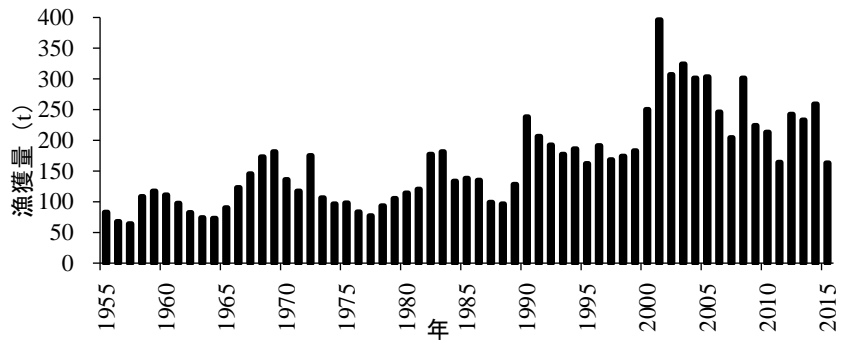
水準：中位



動向：横ばい



漁獲量



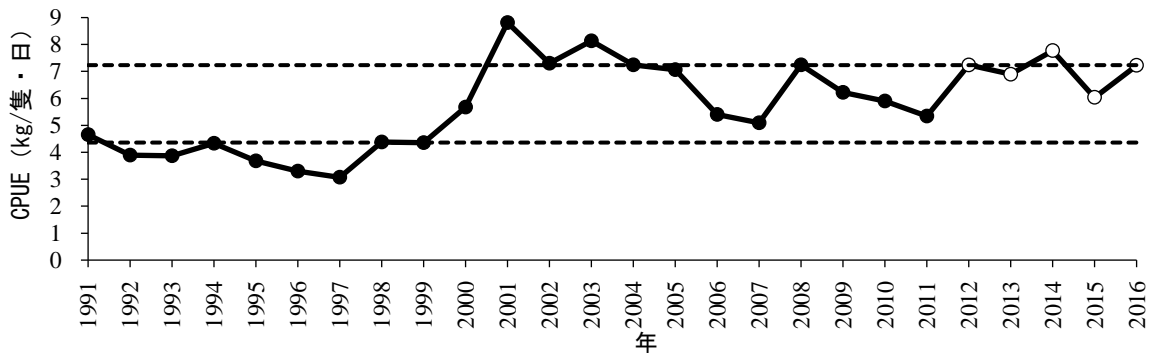
イセエビ漁獲量 (千葉農林水産統計年報) の経年変化

- ・ 1955 年以降緩やかな増加傾向にあったが、2001 年の 396 t を最大に、それ以降は減少傾向にある。
- ・ 2015 年は 163 t。

注) 資源水準は、原則過去 20 年以上の評価指標値 (CPUE) から 4 分位により評価した。
資源動向は、最近 5 年間の評価指標の近似式から年間 5% 以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要地区刺網漁業の CPUE で判断した。
- ・ 2016 年の資源水準は最近 26 年間の中位。最近 5 年間の資源動向は横ばい。



イセエビ主要地区刺網漁業 CPUE の経年変化

資源管理の取り組み

- ・ 千葉県海面漁業調整規則で全長制限 (13 cm 以下のものは採捕してはならない) と禁漁期間 (6/1~7/31) が定められている。
- ・ 漁具 (反数) の制限, 操業時間の制限, 小型個体の再放流等, 漁業者による自主的な資源管理が行われている。

マダコ（外房）



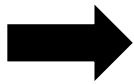
- ・ 漁獲の多くは外房で、たこつぼ、沖合底曳網などで漁獲される。
- ・ 地先に生息する群と、広く回遊する群が存在する。主漁期は12月～4月。生態には不明な点が多い。

資源評価

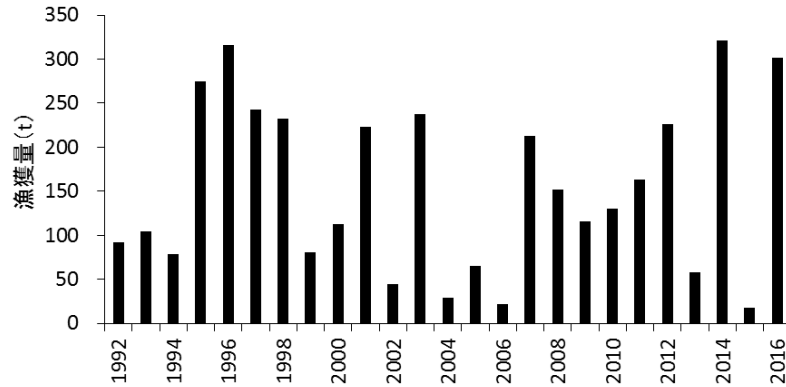
水準：高位



動向：横ばい



漁獲量



マダコ年別漁獲量の経年変化

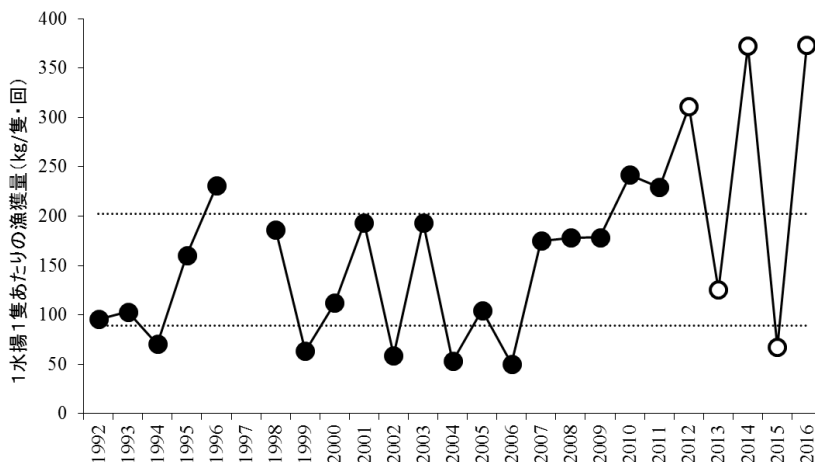
(千葉県調べ。年は漁期年：前年12月～11月)

- ・ 千葉県全体の漁獲量は年ごとに大きく変動している。
- ・ 漁獲量は資源量のほか、海況による回遊経路や時期の変動、茨城県以北の漁獲量等に影響を受けて変動すると考えられる。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、外房A漁協における1992年以降の1航海1隻あたりの漁獲量(CPUE)で判断した。
- ・ CPUEも漁獲量と同様変動が激しいが、2016年の資源水準は高位、最近5年間の資源動向は横ばい。



外房A漁協の1水揚1隻あたり漁獲量。年は漁期年(前年12月～8月)

1997年は隻数データ不明のため欠測。

資源管理の取り組み

- ・ たこつぼ漁業の漁業許可方針で、海域ごとに操業隻数・期間が定められている。

資源評価票の各項目について

(1) 評価基準

- ①評価指標 資源量、CPUE、漁獲量の順に用いる。
- ②資源水準は、4分位により評価し、第1分位数以下を「低位」、第1分位数から第3分位数までを「中位」、第3分位数以上を「高位」とする。
- ③資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から、年間5%以上の増加を増加、5%以上の減少を減少、そのほかを横ばいとする。

(2) 資源水準のマーク

高位 ◎
中位 ○
低位 △

(3) 資源動向のマーク

増加 ↗
横ばい →
減少 ↘